

日本機械学会中国四国支部シニア会 平成30年度企業見学会を開催

8月30日(木)14:00~16:00、JFEスチール株式会社(福山地区)の製鉄所見学会を開催しました。今回で3回目で、シニア会メンバー8名に加え、広島市立大学の学生1名、西部工業技術センター研究員1名の計10名と小規模でしたが、参加者同士和気あいあいとした見学会となりました。

最初、同社の見学センターにて、見学担当職員(女性)から見学コースの全体概要として、①DVD視聴、②製鉄所見学、③質疑応答と約2時間コースの説明を受けました。

①DVD視聴: 約20分ほどで会社概要、製鉄工程の紹介がありました。戦後、福山市沖を埋め立ててマツダスタジアムの約180倍の広大な敷地面積の製鉄所が作られたことや、多くの原材料(鉄鉱石、石炭)がオーストラリアから輸入されていること、粗鋼生産では日本最大の製鉄所であることなどの紹介がありました。

②製鉄所見学: マイクロバスで構内を移動し、主に「高炉」と「圧延工場」を見学しました。構内敷地はマツダスタジアムの約180倍の広大な面積で、敷地内には道路、鉄道が縦横にめぐらされていました。稼働中の「高炉」は4基あり、これも一工場では最大とのこと。その中で最大の「高炉」は高さ約100mもあり、近くで見学するとかなり見上げるほどの高さでした。次に「圧延工場」を見学しました。工場内はとても暑く、全長数100mはある、細長い工場の中に熱間圧延機が数10台並び、工場の端から真っ赤に灼熱した鋼材がローラー上を時速80km/hで流れてくると、2、30m離れた見学者にもその放射熱で、なお一層暑くなりました。工場内には作業員の姿は殆どなく、別室からの最先端の制御技術でほぼ全自動化されている、とのことでした。圧延工程の最後は、数mmまで薄くされた鋼板を、幅約1m、直径2mのコイルに全自動で巻取られる光景も圧巻でした。そのコイルの温度もかなり冷却されているとは、まだ5、600℃あるとのことであられました。「圧延工場」見学のあとの構内移動中に、いくつか見かけた巨大な浄水器の紹介もあり、製鉄の過程で、大量に使用される水は、その殆どは浄化して約90%は再利用されており、環境保全、省資源にも取り組んでいるとのことでした。

③質疑応答: 最初の見学センターに戻り、およそ30分ほど、見学担当職員から、参加者からの様々な質問に答えていただきました。製鉄、製鋼、圧延に関する技術的な質問だけでなく、通勤や福利厚生など職場環境に関する質問にも、殆ど答えていただき、見学担当職員の豊富な知識に驚かされました。年間の見学者は、福山地区だけでも、約7000人ほどあり、とくに夏休み期間は、小学生などの団体見学にも対応している、とのことでした。

最後に、小人数ながらも丁寧に対応していただきました、JFEスチール株式会社(福山地区)見学センターの担当者の皆様に深謝申し上げます。

今後も、興味深い工場などの企業見学会を計画してまいりますので、シニア会員等の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

(文責 杉原)

